# 花鳥風月・短歌

残念だ祭も無くてしょんぼりと

花火が少し上ってうれし

大橋　桃代

線状降水帯の凄まじく

土砂災害や安否不明も

石井　トシ子

時は過ぎ石鎚に登りし頂の夫

夢の中にて励ましくれる

輪唱もよし蝉はリズムを知っている

単眼複眼で下界が見えますか

気楽さに淋しさもありさるすべり

手足動けて明日も楽しく

三谷　福美

大輪の花火の下でどの顔も

赤黄緑に染まりて消える

佐伯　定則

ワクチンを終えてやれやれその後に

ギックリ腰にめまいおうとを

コロナ禍にオリンピック金メダル

国民皆希望をもらう

大橋　桃代

祭り来た神輿が廻りだれも来ぬ

コスモス咲いて天気も良いし

加藤　イサ子

神仏に願いをこめ日々祈る

コロナ撲滅世界の平和

一色　ノブ

絵手紙で孫三人の便り来る

花火に西瓜かき氷描き

小林泰子

繁茂せし南京畑に足入れて

雌蕊を捜す朝のひととき

森本郁子

若ころ忘れるために飲んだ酒

今は飲んだら天国の夢

曽我部福石

介護バス手を高く上げ送る人

心満たせるひと日であれば

鴻上弥生

半分こ夫と分け合ふ玉蜀黍

美味しいなあと美味しいねえと

石めくり我が子は好きな蟋蟀を

追ひかけていた庭の思ひ出

小田和子

秋祭り中止氏神様たちの

機嫌伺府やうな柏手

二科展の作品に腕組んでいる

頭の方は珍紛漢紛

小田慶喜

八月の六日九日十五日

不戦を誓ふ日本の盛夏

徳永誠一

目覚めれば部屋のカーテン開け放つ

猛暑予感の朝日差し込む

越智和人